

## 規範の価値を見だし「行動化」につなぐ子どもを育てる道徳教育の一考察

—道徳の時間を中核とした関連的指導を促進する道徳教育推進教師の取組を通して—

八女市立 長峰小学校  
教諭 岡 小百合

こんな手立てによって…

道徳教育推進教師として、道徳の時間を中核とした関連的指導を促進するために、関連的指導の活動構成の明確化と、教職員に対し、「道徳の時間を充実させる」、「関連的指導に対する理解を深める」、「実践後の評価・修正を行う」といった3つの働きかけを行った。

こんな成果があった！

規範に必要性を感じ、価値あるものと判断して、自己の生活と結び付けて考え、道徳的価値を实践（「行動化」）しようとする子どもの姿が見られるようになった。また、教職員の、道徳の時間を中核とした関連的指導の実施が促進され、道徳の時間の充実、行動化に結びつく指導の充実が図られた。

### 1 考えた

現在、社会全体の規範意識の低下が叫ばれている。これからの道徳教育は、こうした課題を視野に入れ、人間としてよりよく生きたいという願いをもち、この願いの実現を目指して生きようとする人間の育成を目指していかなければならない。また、本校にとっても、規範意識の向上は喫緊の課題である。そこで、規範的行為のよさを感じ取るとともに規範の意味についての理解を深め、高められた価値観に照らして、自他共に高まる生き方を志向し、その生き方を実践できる子どもを育てていかなければならないと考えた。そのために、道徳教育における道徳の時間を核とした関連的指導及び、関連的指導を推進するための道徳教育推進教師としての取組の在り方を究明することにした。

### 2 やってみた

明確化した道徳の時間を核とした関連的指導の活動構成をもとに、まず、道徳教育推進教師が、若手教員へのロールモデルを通じた授業公開を行った（実践例1）。その後、若手教員が、道徳の時間を核とした関連的指導の実践を行い（実践例2、実践例3）、道徳教育推進教師はアドバイザーとしての役割を果たした。また、全教職員に対し、子どもの生活や体験活動との関連を意識した道徳の授業公開を行った。加えて、道徳教育推進教員として、関連的指導の説明や例示を行い、学期末に学級担任に対するアンケート調査を行い、結果の分析・修正を行った。

### 3 成果があった！

道徳の時間を中核とした関連的指導の効果について、教職員に対する調査を行ったところ、めざす子どもの姿（「価値性」、「志向性」、「実行性」）が見られたと評価する教職員が多かった。このことから、関連的指導が、規範に必要性を感じ、価値あるものと判断して、自己の生活と結び付けて考える子どもを育てる上で有効であったといえることができる。また、道徳教育推進教員としての働きかけが、道徳教育に対する教職員の評価を高めることにもつながった。

## 規範の価値を見いだし「行動化」につなぐ子どもを育てる道徳教育の一考察

—道徳の時間を中核とした関連的指導を促進する道徳教育推進教師の取組を通して—

1	主題設定の理由	3
	(1) 道徳教育の動向から	3
	(2) 本校の道徳教育の反省と児童の実態から	3
2	主題の意味	4
	(1) 規範とは	4
	(2) 規範に価値を見いだし「行動化」につなぐ子どもとは	4
	(3) 道徳の時間を中核とした関連的指導とは	5
	(4) 道徳の時間を中核とした関連的指導を促進する道徳教育推進教師の取組とは	5
3	研究の目標	6
4	研究の仮説	6
5	研究の構想	6
	(1) 道徳の時間を中核とした関連的指導について	6
	(2) 道徳教育推進教師の取組について	7
	(3) 研究構想図	8
6	研究の実際	9
	(1) 道徳の時間を中核とした関連的指導	9
	① 実践例1 主題名「相手の立場に立った親切」	9
	② 実践例2 主題名「毎日を気持ちよく」	12
	③ 実践例3 主題名「みがき掃除名人をめざそう」	13
	④ 実践例4 主題名「社会のために役立とう」	15
	(2) 道徳教育推進教師の取組	18
7	成果と課題	19
	(1) 研究の成果	19
	(2) 今後の課題	20
	<参考文献>	20

## 規範の価値を見だし「行動化」につなぐ子どもを育てる道徳教育の一考察

—道徳の時間を中核とした関連的指導を促進する道徳教育推進教師の取組を通して—

八女市立 長峰小学校  
教諭 岡 小百合

### 1 主題設定の理由

#### (1) 道徳教育の動向から

道徳教育の役割は、道徳性の育成にある。子どもたちの道徳性の発達は、子どもたちを取り巻く社会の影響を大きく受けており、今日の変動の激しい社会においては、子どもたちの自然な道徳性の発達を阻害している現象も多く指摘されている。その現象の1つに、社会全体の規範意識の低下が挙げられる。社会全体や他人のことを考えず、専ら個人の利害損得を優先させる、他者への責任転嫁など責任感の欠如といった社会的風潮が、社会全体の規範意識を低下させ、それが子どもたちが本来もっている人間としてよりよく生きようとする力を弱めている。これからの道徳教育は、こうした課題を視野に入れ、人間としてよりよく生きたいという願いをもち、この願いの実現を目指して生きようとする人間の育成を目指していかなければならない。本主題は、規範に価値を見だし、日々の生活や体験活動と関連付けて自己の生き方の課題を考え、実現していこうとする子どもを育てようとするものであり、社会の要請に応える意義あるものである。

#### (2) 本校の道徳教育の反省と児童の実態から

本校では、道徳の時間の基本的な学習過程の定着を改めて図り、資料の登場人物の価値ある行為や気付きのもとにある感じ方や考え方を十分に追求させ、道徳的実践力を育成することを重視している。しかし、道徳の時間において、子どもたちに道徳的価値のよさを自分とのかかわりで追求させ、これからなりたい自分を思い描き、実践への構えをつくらせるまでに至っていないという課題が明らかになってきた。また、本校の子どもたちは、明るく活動的であるが、一方で、自己中心的な考えに固執し、他者の立場になって考えて行動することが苦手である傾向がみられ、自他共によい関係を築かせることに課題がある。

そこで、道徳教育の要である道徳の時間において、子どもに、規範がもつ価値のよさや意味を日々の生活や体験活動と重ね合わせて考えさせ、規範は自他が共に生きるために大切なものであると実感させることが大切であると考えた。加えて、子どもに、道徳の時間に学んだことを、日々の生活や体験活動でより確かにさせ、自己の成長に気付かせる必要がある。本校の平成25年度教育目標は、「確かな学力・豊かな心と規範意識・健やかな体の調和のとれた児童の育成」であり、規範意識の向上は喫緊の課題である。よって、本主題は、本校の教育目標を達成するために不可欠な課題であり、自分の利益だけでなく社会や公共のために何をなし得るかを大切に考え、規範に基づいて判断し、行動しようとする子どもを育てる上からも意義深いと考える。

## 2 主題の意味

### (1) 規範とは

まわり（他者や集団や社会）との関係の中で、よりよい人間関係を維持したり、その関係を向上させたりするために集団の成員によって共有される、価値判断の基準である。

文部科学省及び警視庁が作成した「児童生徒の規範意識を育むための教師用指導資料」（2006）の中で、規範とは、「集団の成員によって共有され、人間が行動したり判断したりする時に従うべき価値判断の基準」であると述べられている。また、規範意識とは、「規範を守り、それに基づいて判断したり行動したりしようとする意識」であるとされている。つまり、規範とは、自他共によりよい関係を保つにはどうしたらよいか、よりよく過ごすにはどうすればよいのかといった、社会の成員に要求される価値判断の基準であり、実行に移すことが求められるものであるとすることができる。

規範的な行為を実行に移すためには、規範を望ましい価値と判断し、自発的な動機に基づいて行動しなければならない。子どもの健全な自発的動機を高めるためには、規範を行う時の目的に着目し、複数の側面から規範意識を育む必要があると考える。規範は、目的からその特徴を考えると、ルール（きまり等の遵守行動）、マナー（礼儀作法が身についた行動）、モラル（道徳的な価値に基づく行動）に分類、整理することができる。これらのことを踏まえ、規範の内容を、表1に示すように3つの領域でとらえた。

表1 規範の3つの領域

領域	ルール	マナー	モラル
特徴	他者や集団とのかかわりの中で、互いが安全に安心して生活できるために守らねばならない基準。	他者や集団とのかかわりの中で、周囲の人に不快な思いをさせずに互いに気持ちよく生活するための行動様式や基準。	人がよりよく生きていくために、善悪をわきまえ、よりよい行いを積極的に志向する基準。
具体的行為の例	・約束やきまりを守る ・役割や義務を果たす ・分担場所を掃除する	・あいさつをする ・礼儀正しくする ・わがままをしない	・思いやり、親切にする ・助け合う ・生命尊重 ・誠実に接する

### (2) 規範に価値を見だし「行動化」につなぐ子どもとは

規範的行為のよさを感じ取るとともに規範の意味についての理解を深め、高められた価値観に照らして、自他共に高まる生き方を志向し、その生き方を実践できる子どものことである。

具体的には、以下のような子どもをめざす。

- 規範的行為や行為を行うときの心情のよさを感じ取り、規範の意味や必要性についての理解を深めることができる子ども（**価値性**）
- 規範のよさや意味を日々の生活や体験と関連付けて考え、現在の自己の課題やよさに気づき、「よくなりたい」「こうありたい」と、期待感をもってこれからなりたい自己の生き方を思い描くことができる子ども（**志向性**）
- 規範について抱いた思いや願いの実現に向けて努力し、自己の心の中にある新たな気持ちに気付いたり、気持ちの深まりや行動の変化に気付いたりするなど自己の変容に気づき、自己の成長を実感できる子ども（**実行性**）

### （3）道徳の時間を中核とした関連的指導とは

要となる道徳の時間と子どもの日々の生活や各教科・領域の体験活動とを結び付け、「**価値追求の構えをつくる活動**」→ **道徳の時間** →「**自己の変容を実感する活動**」という活動構成で道徳学習を進めることである。

規範意識の向上を図り、規範的な行為を実践できる子どもを育てるためには、道徳教育の要である道徳の時間が重要な役割を果たす。道徳の時間を中核にすると、子どもの規範意識を高めるために、道徳の時間において、規範のよさや意味についての価値観を高め、その高まった価値観を自分を評価する観点とし、これまでの生活や体験活動をふり返り、これから自分はどうか生きるのかについて考えさせることである。

子どもたちは、日々の教育活動の中で規範に多く接している。しかし、それは一過性で終わったり、断片的であったりして、子どもの心に深く意識されないことが多い。そのため、子どもが、規範がもつ価値を意識し、自分の生き方とつなげる学習が必要となる。関連的指導とは、要となる道徳の時間とその前後の生活や各教科・領域の諸教育活動とを結び付けて学習を構成し、ねらいとする内容項目を効果的に指導し、めざす子どもの姿を生み出そうとするものである。

### （4）道徳の時間を中核とした関連的指導を促進する道徳教育推進教師の取組とは

道徳教育推進教師として、道徳の時間を中核とした関連的指導を促進するために、以下の3つの働きかけを教職員に対して行うことである。

- **道徳の時間を充実させるための働きかけ**
- **関連的指導に対する理解を深めるための働きかけ**
- **実践後の評価・修正を行うための働きかけ**

道徳教育は、学校の教育活動全体で推進するものであり、教職員が互いに学び合い、目的や手だてを共有し、力を合わせながら一体的に進めるものである。しかし、道徳教育への取組の意識は十分とは言えず、取組の必要性を感じながらも、その体制が十分であるとは言い難い。そこで、道徳教育推進教師が、要となる道徳の時間の授業改善の支援を行うとともに、

道徳の時間と子どもの生活や体験活動とを関連させる活動構成を具体化し、実践後の評価・修正を行うための働きかけを行い、P D C A サイクルをつくることが、道徳の時間を核とした関連的指導を推進するために重要であると考えます。

### 3 研究の目標

規範に価値を見だし「行動化」につなぐ子どもを育てるために、道徳教育における道徳の時間を核とした関連的指導及び、関連的指導を推進するための道徳教育推進教師としての取組の在り方を究明する。

### 4 研究の仮説

道徳教育推進教師として、道徳の時間を中核とした関連的指導を促進するための以下のような取組を行えば、規範に価値を見だし「行動化」につなぐ子どもを育てることができるであろう。

- ① 道徳の時間を中核とした関連的指導を行うための活動構成の明確化
- ② 「道徳の時間を充実させる」・「関連的指導に対する理解を深める」・「実践後の評価・修正を行う」ための教職員に対する3つの働きかけ

### 5 研究の構想

#### (1) 道徳の時間を中核とした関連的指導について

本研究では、道徳の時間と子どもの日々の生活や各教科・領域の体験活動とを関連させ、「価値追求の構えをつくる活動」→道徳の時間→「自己の変容を実感する活動」という活動構成で道徳学習を進める(図1)。

まず、「価値追求の構えをつくる活動」として、日々の生活の中で規範について意識させたり、各教科・領域において事前の活動を行ったりする。そうすることで、規範のすばらしい価値にふれさせたり、自分の中の意識のズレや価値に対する自分の思いに気付かせたりすることができ、価値を追求するための課題を意識化させることができる。

次に、道徳の時間においては、資料を通して規範のよさや意味についての価値観を高め、その高まった価値観を自分を評価する観点とし、これまでの体験活動をふり返り、これから自分はどうか生きるのかについて考えさ

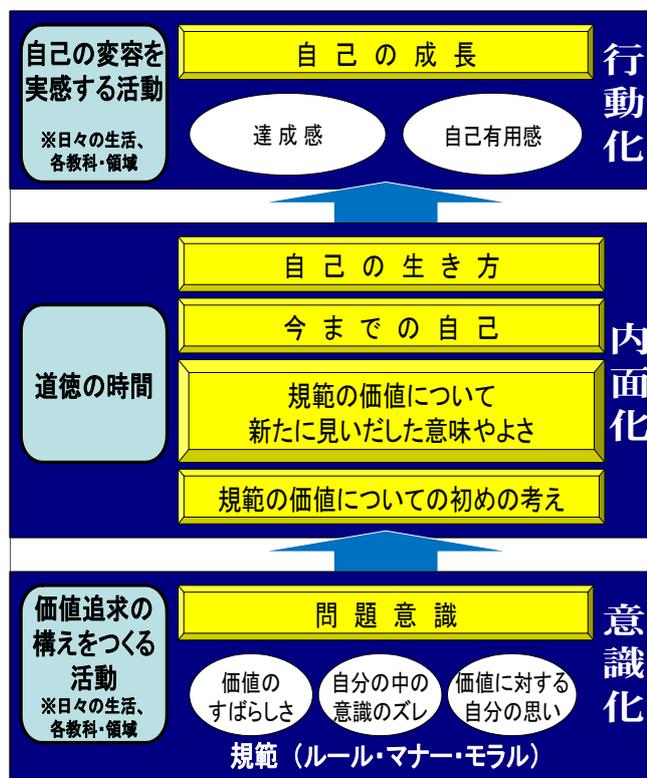


図1 関連的指導の活動構成

せ、規範の内面化を図る。そうすることで、規範のよさや意味について自分とのかかわりで考え、規範を大切にしていきたいという思いや願いを抱かせることができる。

そして事後に、「自己の変容を実感する活動」を行い、道徳の時間に抱いた思いや願いを日々の生活や各教科・領域の中で行動化（実践）し、達成感や自己有用感を味わわせることで、自己の成長を実感させることができると考える。

## （２）道徳教育推進教師の取組について

規範に価値を見いだし「行動化」につなぐ子どもを育てる道徳教育を学校の教育活動全体で進めるために、道徳教育推進教師として、「道徳の時間を充実させる働きかけ」・「関連指導に対する理解を深める働きかけ」・「実践後の評価・修正を行う働きかけ」といった、3つの働きかけを教職員に対して行う（表2）。

「道徳の時間を充実させる働きかけ」については、まず、研修の時間に、道徳の時間の特質について、全教職員に対し、基本的な学習指導過程を提示したり、プレゼンテーションで道徳の時間と道徳教育の違いを説明したりすることを通して共通理解を図る。また、若い教師に対して、道徳教育推進教師がロールモデル（スキルや具体的な授業づくりを学んだり、模倣したりするための模範）となる授業を提案し、道徳の時間の授業づくりについてのアドバイザーとしての役割を果たすことができるようにする。また、全教職員に対し、子どもの生活や体験活動との関連を意識した道徳の授業公開を積極的に行うようにする。

「関連指導に対する理解を深める働きかけ」については、道徳の時間と体験活動とを結び付けた関連的指導の年間指導計画作成についての説明や、関連的指導をどのように仕組みたらいいかについての例示を行う。

「実践後の評価・修正を行う働きかけ」については、前期と後期の学期末に学級担任に対するアンケート調査を行い、結果を分析するとともに、指導計画の修正を行ってもらうようにする。

表2 道徳教育推進教師の3つの働きかけ

働 き か け	○ 道徳の時間を充実させるための働きかけ	○ 関連的指導に対する理解を深めるための働きかけ	○ 実践後の評価・修正を行うための働きかけ
具 体 的 取 組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の時間の特質についての共通理解（基本的な学習指導過程の提示）</li> <li>・若い教師へのロールモデルを通じた指導助言</li> <li>・道徳の時間の授業公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の時間と体験活動とを結び付けた関連的指導の年間計画についての説明</li> <li>・関連的指導の組み立て方についての例示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践後の学級担任に対するアンケート（評価）の実施と分析</li> <li>・関連的指導計画を修正する提案と取りまとめ</li> </ul>

また、道徳教育推進教師として、それぞれの働きかけや、取組を行う時期については、図2に示す通りである。道徳の時間の授業改善を促し、道徳の時間との関連的指導のモデルを示して実践化を図り、計画の評価・修正を行うことができるようにする。

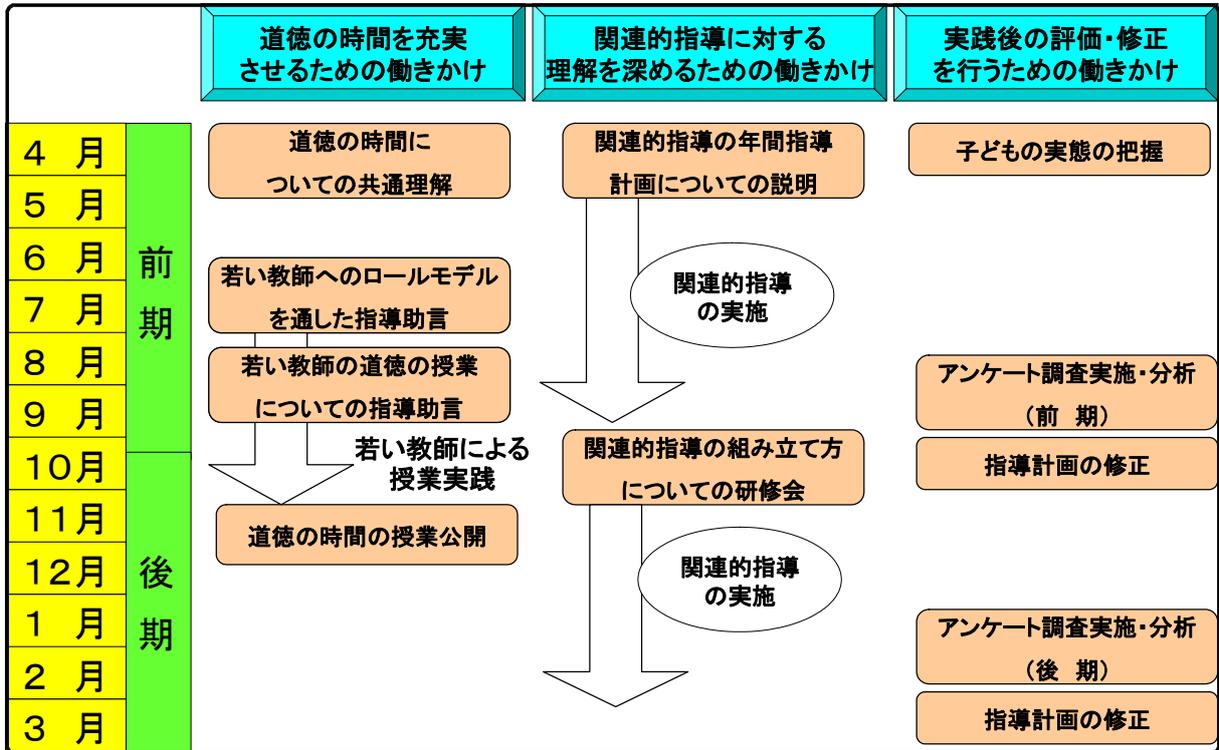


図2 道徳教育推進教師としての取組

(3) 研修構想図

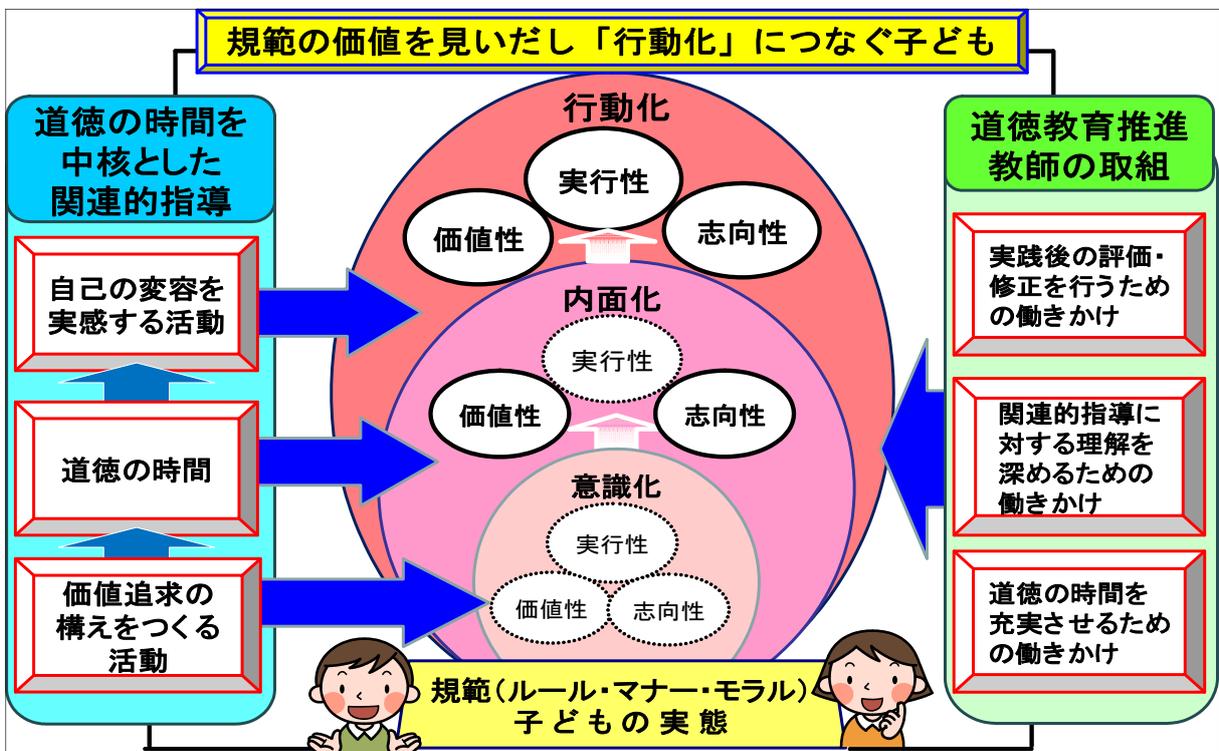


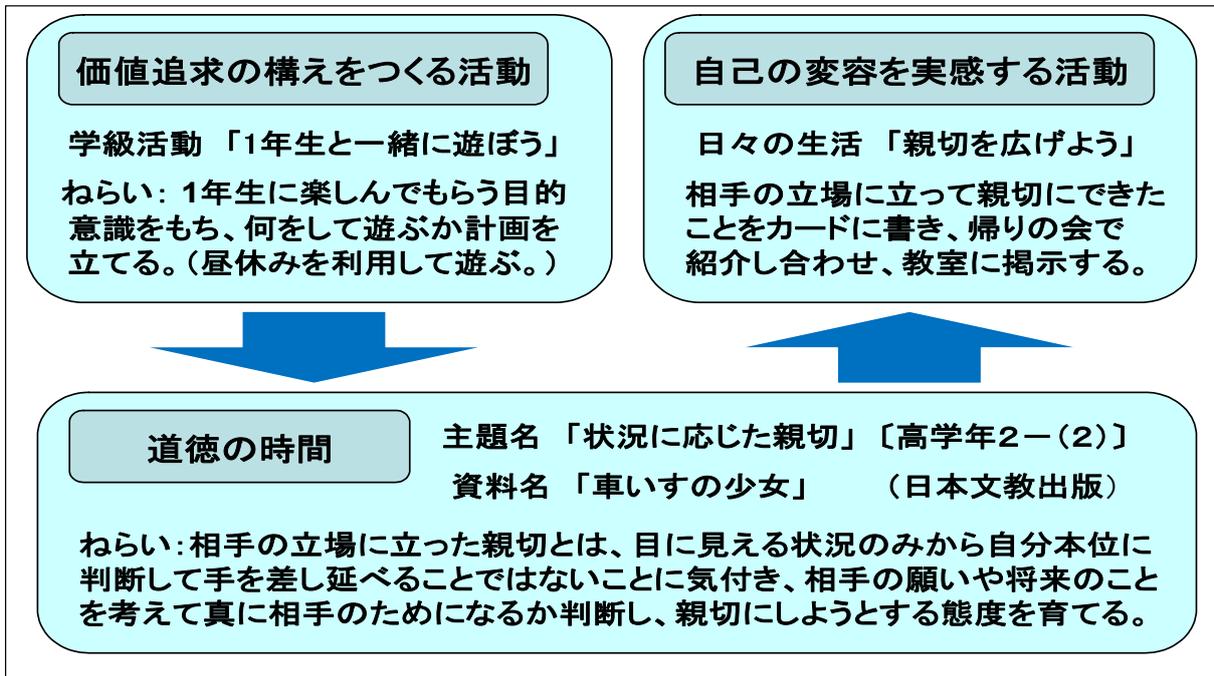
図3 研究構想図

6 研究の実際

(1) 道徳の時間を中核とした関連的指導

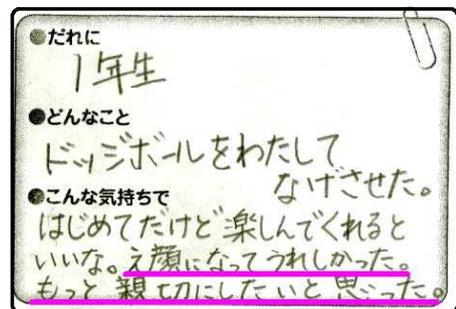
① 実践例1 (モラル) 道徳教育推進教師によるロールモデルとしての実践

第5学年 主題名「相手の立場に立った親切」 H25 7月実施



ア 価値追求の構えをつくる活動

学級活動「1年生と一緒に遊ぼう」において、学級で遊びの内容や遊ぶための準備について話し合い、昼休みに一緒に遊んだ。活動後、子どもたちは、資料1のように、親切という規範の心地よさを感じ、もっと親切にしたいという問題意識をもつことができた。



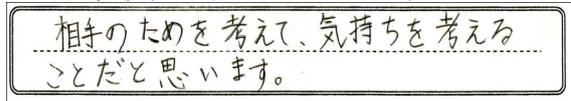
資料1 活動後の子どもの感想

イ 道徳の時間

第5学年 主題名「状況に応じた親切」〔高学年2-(2)〕  
資料名「車いすの少女」 (日本文教出版)

資料「車いすの少女」は、事故に遭い両足が不自由な道子が乗った車いすが道路のくぼみに落ちた際に、あえて手をかそうとしない母親の姿を見たことを通して、主人公が親切の在り方について考え直していく話であり、相手のためになる親切とはどのようなことかを考えるために適した資料である。

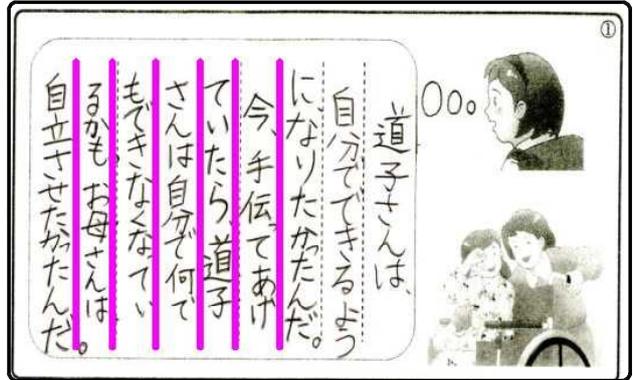
導入では、学級活動「1年生と一緒に遊ぼう」で、1年生とドッジボールをする計画を立て、昼休みに一緒に遊んだ体験を振り返り、親切にするにはどのようなことが大切か話し合わせた。子どもたちは、資料2のように、相手のためを考えることが大切であると漠然と考えていた。



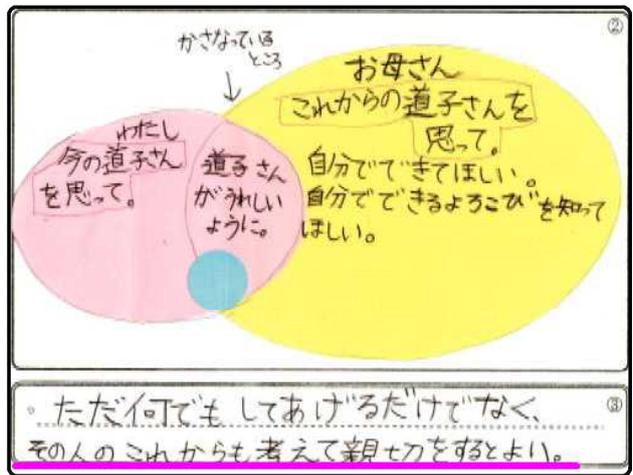
資料2 価値についての初めの考え

その上で、資料「車いすの少女」を読み、主人公と母親の親切に対する感じ方、考え方の違いに着目させた。子どもたちからは、「主人公も母親もどちらも親切だけれど、母親の方が道子さんのためを思っていると思う。」「主人公と母親の親切は何が違うのだろう。」といった意見が出され、相手のためになる親切だと判断する理由が曖昧であることから、「相手のためになる親切とはどのようなことか考えよう」というめあてをつかむことができた。

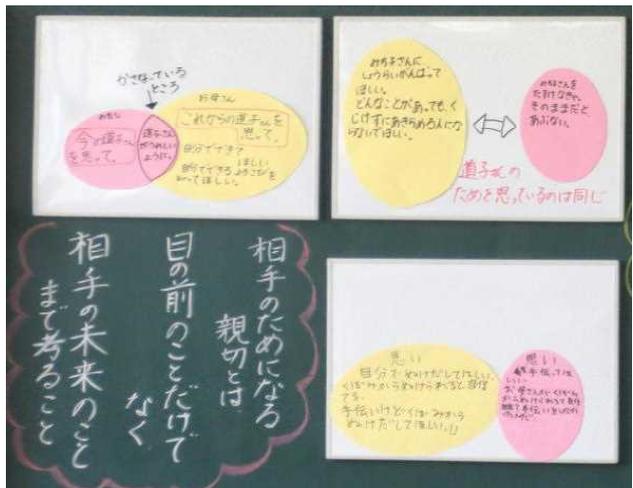
展開前段では、まず、車いすの車輪がくぼみに落ちて困っていた道子が、自分の力でくぼみからぬけ出したとき、涙を浮かべた母親の姿を見たときの、主人公の心情を考えさせた。子どもたちは資料3のように、あえて手をかさず見守る母親の道子を思いやる心情のよさを共感的にとらえることができた。さらにここで、相手のためになる親切の意味を明らかにするため、「相手をどのように思いやれたとき、相手のためになる親切といえるのだろう。」と問い、主人公と母親の道子を思いやる気持ちの大きさを丸図で可視化（資料4）させ、気持ちの中身を比較して交流させた（資料5）。交流において、子どもたちは、主人公と母親の思いやる気持ちの共通点や相違点に着目して話し合った。子どもたちからは、「道子さんのためを思っているのは同じだと思う。」「でも、道子さんは学校に行きたいから、お母さんは、自分でできるように自信をつけさせたいのだと思う。」「わたし（主人公）は今の道子さんのことを思っているけれど、お母さんはこれからの道子さんのことまで思っている。」といった意見が出され、相手のためになる親切とは、目の前のことだけでなく、相手の未来のことも考えることであると、自己の価値観を高めることができた。これは、本研究がめざす「価値性」が表れた姿であるということが出来る。



資料3 心情追求の学習ノート



資料4 思いやりを可視化した学習ノート



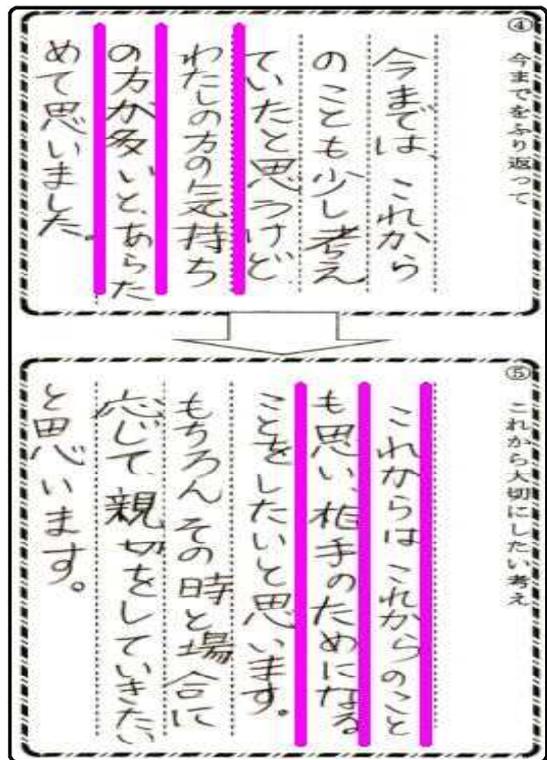
資料5 全体交流で使用した板書

展開後段では、今までの自分の、相手を思いやる気持ちが、主人公と母親のどちらに近かったのかを考えて展開前段で可視化した図に印を付けさせ、これからの生き方について考えさせた。資料6は、相手の将来について考えることはできていたが、相手の今のことを考えて親切にする気持ちが強かったと自己評価している子どもの記述である。今までの自己を振り返り、「(相手の) これからのことも思い、相手のためになることをしたいと思います。」と、これからの自己の生き方を思い描くことができていることがわかる。高められた価値観に照らして今までの自己を評価し、これからの生き方を思い描くことができている、これは、本研究がめざす「志向性」が表れた姿といえることができる。

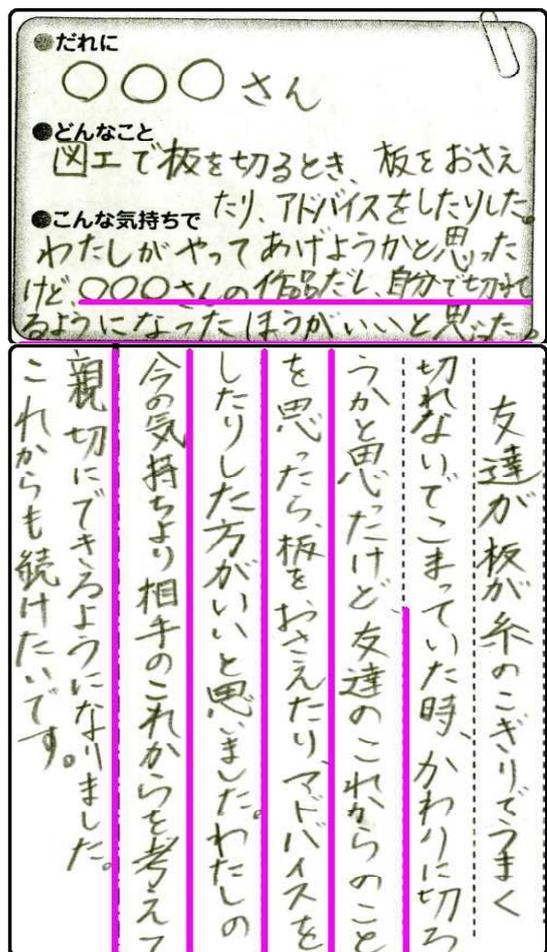
終末では、1年生と一緒に遊ぶ体験活動をしたときの1年生や担任の先生の感謝の言葉や、外国からきた友達に対して子どもたちが行っていた時と場に応じた親切についての話をし、実践意欲を温めさせた。

#### ウ 自己の変容を実感する活動

事後に、日々の生活の中で「親切を広げよう」という活動を行った。道徳の時間に思い描いた生き方を実践し、帰りの会で親切な行いを振り返ってカードに書いて紹介させたり、カードを教室に掲示したりした。資料7は、図工の時間に電動糸のこぎりで板を切っている友達に親切にした子どものカードと、2週間の活動を終えての感想である。相手のこれからを考えた上で親切にすることができたことを実感することができている、本研究がめざす「実行性」が表れた姿であるといえることができる。



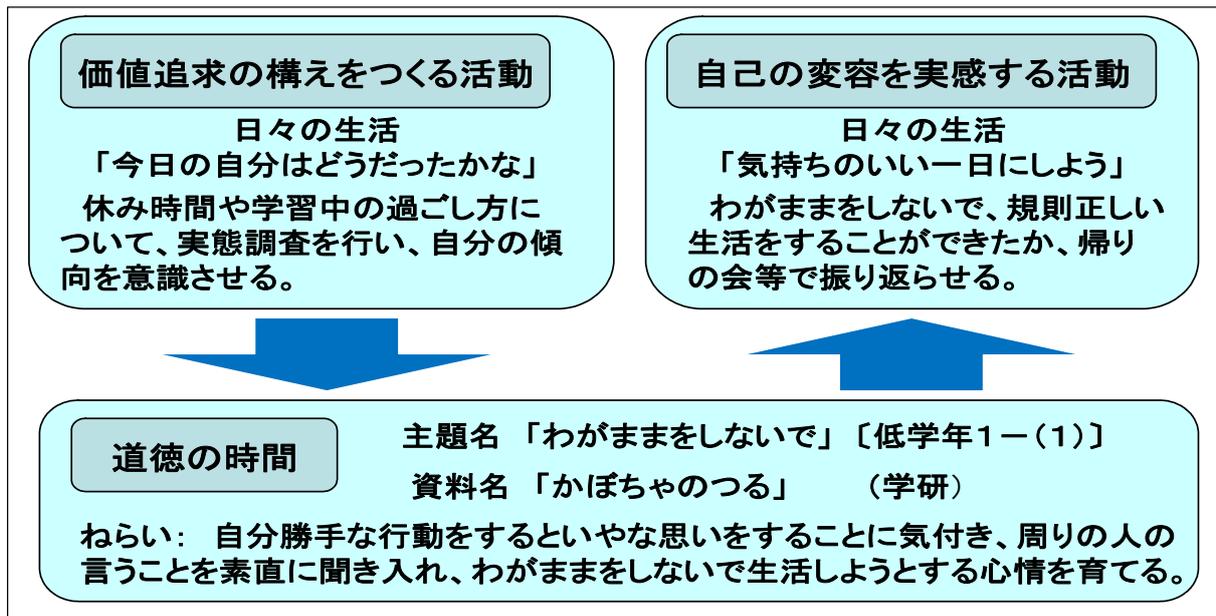
資料6 今までの自己、自己の  
生き方についての学習ノート



資料7 事後の活動の記録カードと感想

② 実践例2 (マナー) 若手教師Aによる実践

第1学年 主題名「毎日を気持ちよく」 H25 9月実施



ア 価値追求の構えをつくる活動

日常生活の様子を振り返らせ、時間を守ることができなかった経験や遊具等の独り占めをしてしまった経験などの実態調査を行った。子どもたちは、わがままをするといやな気持ちになるという、問題意識をもつことができた。

イ 道徳の時間

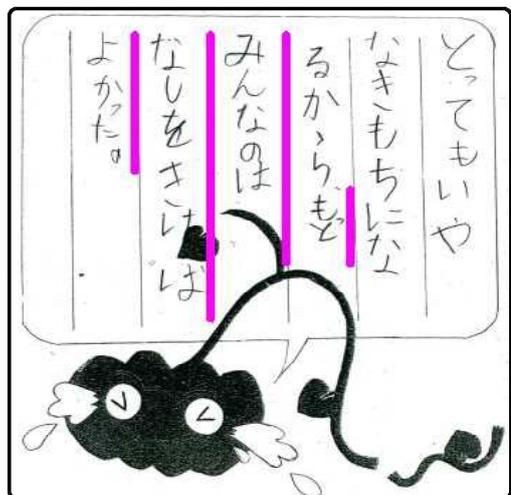
第1学年 主題名「わがままをしないで」〔低学年1-(1)〕  
資料名「かぼちゃのつる」 (学研)

資料「かぼちゃのつる」は、主人公かぼちゃが周りの生き物の言葉を無視して自分勝手につるを伸ばし続けた結果、トラックにひかれて痛い思いをする話であり、わがままをしないで規則正しい生活をする大切さを考えるために適した資料である。

導入では、事前の実態調査をもとに、わがままをして失敗した経験を話し合わせた。

子どもたちからは、「わがままをするとみんないやな気持ちになる。」という意見が出され、「わがままをしないための心を見つけよう。」というめあてをつかむことができた。

展開前段では、場面絵を使って資料を語り聞かせ、わがままにつるを伸ばすかぼちゃに十分共感させた後、つるを切られたかぼちゃの気持ちを考えさせ、わがままをしない心について話し合わせた。子どもたちは、資料8のように、「もっと、みんなの話を聞けばよかった。」と後悔の気持ちを多く学習ノート



資料8 心情追求の学習ノート

に書いており、人の話を素直に聞き、自分勝手な気持ちを小さくすることが、わがま  
まをしないために大切であるという価値をとらえることができた（「価値性」）。

展開後段では、わがまをせず気持ちよく生活できた体験を発表させ、自分たちに  
も、素直に人の話を聞いたり自分勝手な気持ちを抑えたりする心があることに気付か  
せ、もっと気持ちよく生活したいという思いを持たせることができた（「志向性」）。

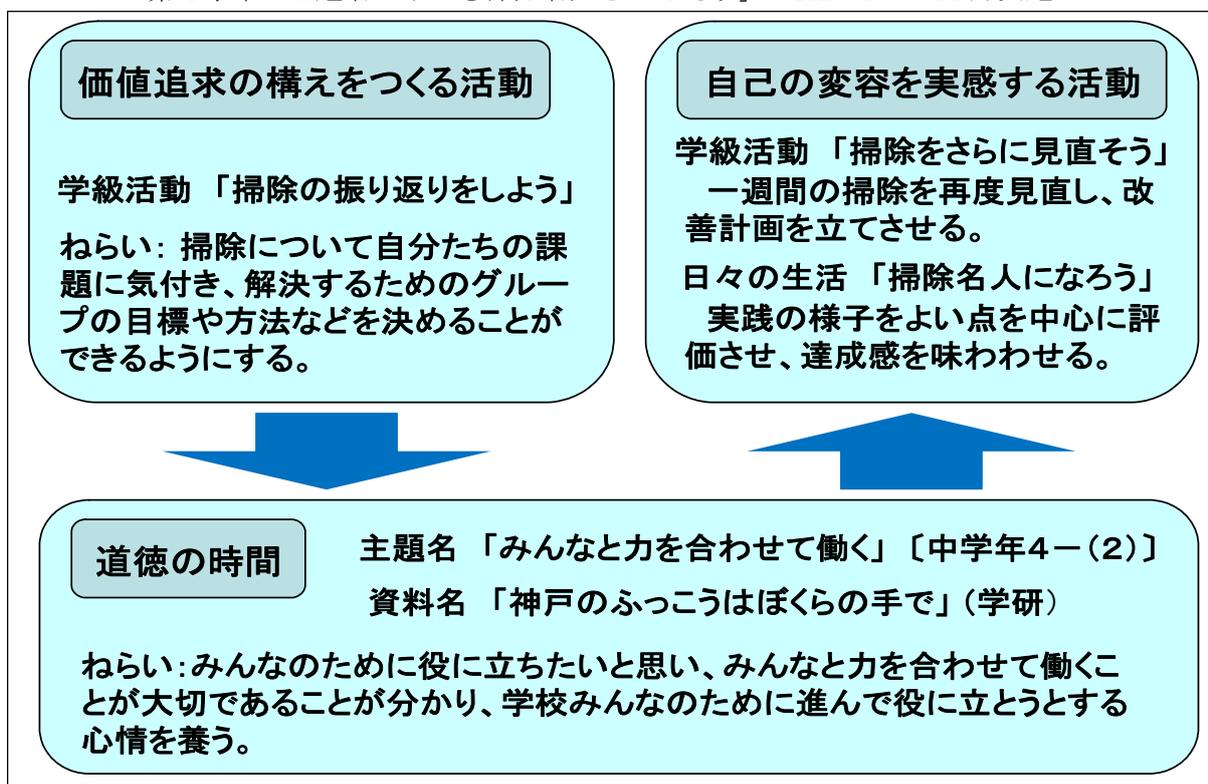
終末では、入学してからの子どもたちの成長について、教師からの賞賛を伝え、気  
持ちよく生活しようとする意欲を温めさせた。

#### ウ 自己の変容を実感する活動

事後に、帰りの会等で、気持ちよく生活することができたかを振り返らせ、賞賛した  
り、励ましの声をかけたりすることで、子どもに達成感や自己有用感を味わわせるこ  
うができた（「実行性」）。

### ③ 実践例3（ルール） 若手教師Bによる実践

第4学年 主題名「みがき掃除名人をめざそう」 H25 10～11月実施



#### ア 価値追求の構えをつくる活動

学級活動「掃除の振り返りをしよう」において、アンケート結果とビデオから、日頃  
の掃除の様子を振り返らせ、課題を考えさせた。子どもたちは、時間内に掃除を終  
わらせることができていなかったり、終わっていないところを手伝うことができてい  
なかったりする掃除の実態に課題を感じ、みんなと力を合わせて掃除ができるよう  
になりたいという問題意識をもつことができた。6年生からのアドバイスをもらい、課  
題解決のための計画案を作成させ、実践していこうとする意欲をもたせた。

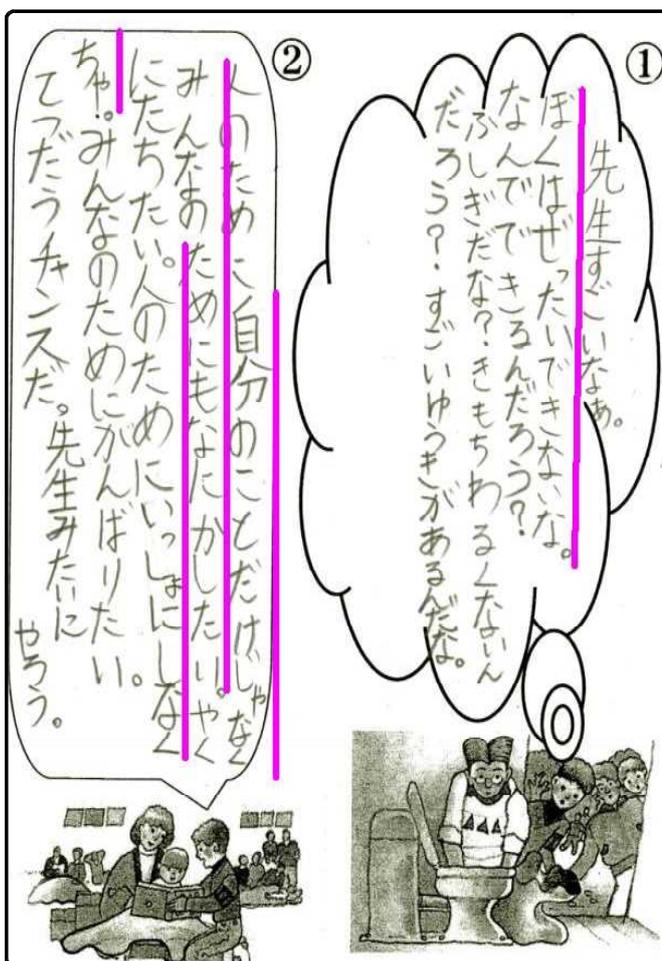
第4学年 主題名「みんなと力を合わせて働く」 [中学年4- (2)]  
 資料名「神戸のふっこうはぼくらの手で」 (学研)

資料「神戸のふっこうはぼくらの手で」は、地震による避難生活が始まった学校で、先生が大便を始末している姿や避難所の仕事を分担する人の姿を見て、主人公も自分にできることを考え、小さい子に読み聞かせをすることで、みんなと力を合わせて働こうとする話であり、自分にできることをしてみんなと力を合わせて働くことの大切さについて考えるのに適した資料である。

導入では、学級活動「掃除の振り返りをしよう」で、掃除の課題解決のために計画案を作成して実践していることを想起させ、どのような気持ちで掃除に取り組んでいるかを話し合わせた。子どもたちから、「掃除が上手になりたい。」、「みんな

のために進んで働くことができるようになりたい。」といった意見が出され、みんなのために働こうとしていることは共通の思いであることから、「みんなのために何かができる自分を見つけよう。」というめあてをつかむことができた。

展開前段では、まず、避難所の大便の始末をする先生の姿をただ見ているだけだった主人公の心情を考えさせた。子どもたちは資料9 (右①) のように、大変な仕事に対して何もできずにいる主人公の心の弱さや迷いを共感的にとらえることができた。そして、小さな子どもが、ぬいぐるみをなくして泣いているのを見て、はっとした主人公の心情を考えさせ、他者が仕事をしているのを見ているだけだった前の主人公の心情と比較して交流させた。交流において、子どもたちは、資料9 (左②) のように、「自分のことだけじゃなく、みんなのためにも何かしたい。」「人のためにいっしょにしくちゃ。」といった意見を出し合う中で、みんなのために何かをするためには、できることを考えて力を合わせて働こうとする心を大きくすることが大切であることに気づき、価値観を高めることができた。これは、本研究がめざす「価値性」が表れた姿である。



資料9 心情追求の学習ノート

展開後段では、今までの自分の生活を振り返らせ、これからの生き方について考えさせた。資料10は、今まで仕事を他者におしつけがちであった子どもの記述である。今までの自己を振り返り、「これから、自分のことだけ考えるのではなく、他の人のことも考えたいです。」とこれからの自己の生き方を思い描くことができる。これは、本研究がめざす「志向性」が表れた姿といえる。

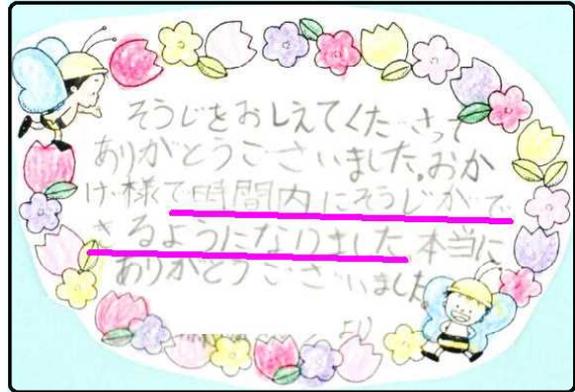
今までは、自分のことしか考えてなく人におしつけたりしてました。でもこれから自分のことだけ考えるのではなくほかの人のことも考えたいです。

終末では、「働く」という言葉には、「みんな（はた）を、楽（らく）にする」という意味もあるという話をし、進んで力を合わせ、働こうとする意欲を温めさせた。

ウ 自己の変容を実感する活動

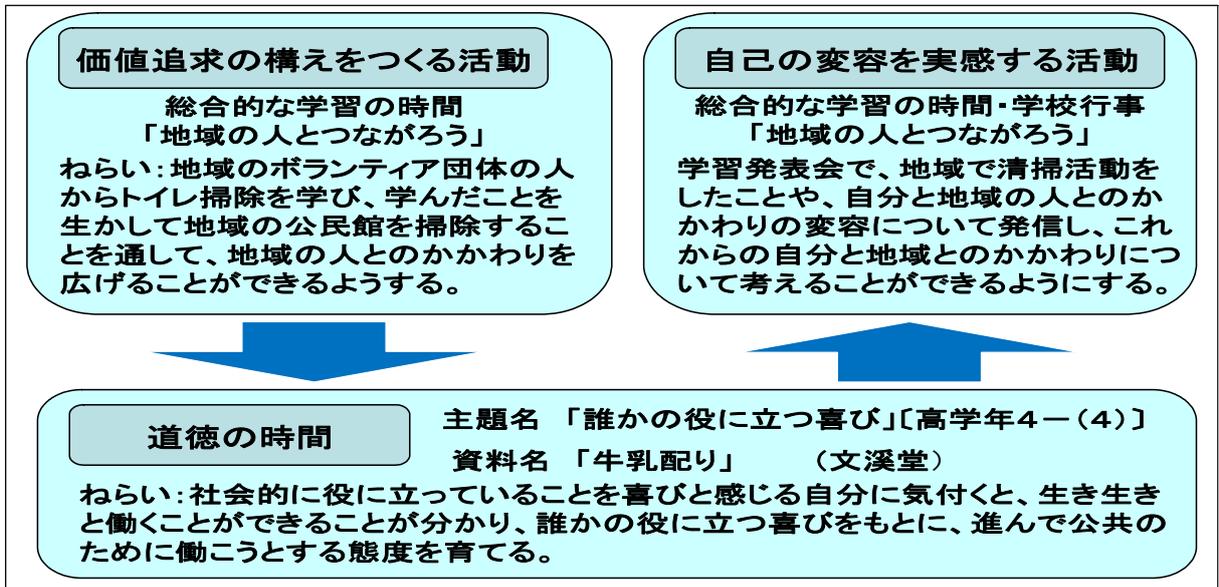
資料10 今までの自己、自己の生き方についての学習ノート →

事後に、学級活動「掃除をさらに見直そう」の学習で、自分たちの掃除の計画案を1週間実践した後、振り返りを行わせ、再度、改善案を立てて実践させた。そして、帰りの会で、改善できた点に着目して実践の結果を評価させ、達成感や自己有用感を味わわせた。資料11は、掃除のアドバイスをもらった6年生に対するお礼の手紙であり、「時間内に掃除ができるようになった。」と自己の成長を感じることができていることがわかる。これは本研究がめざす「実行性」が表れた姿であるといえる。



資料11 活動後のお礼の手紙

④ 実践例4 (ルール・モラル) 道徳教育推進教師による全教職員に対する授業公開  
第5学年 主題名「社会のために役立つ」 H25 11月～12月実施



ア 価値追求の構えをつくる活動  
総合的な学習の時間「地域の  
人とつながろう」の学習におい  
て、まず、地域のトイレ掃除を  
しているボランティア団体の人  
に、トイレ掃除の仕方を教わっ  
た。資料12は、トイレ掃除後の  
子どもの感想であり、「(ボラン  
ティア団体の人) きたない所  
でも手を入れてみがいしてい  
てすごかったです。」と、地域の人の  
素晴らしさに憧れをいただいで  
いることが分かる。トイレ掃除後  
に、学んだことを生かして、地  
域の公民館に出かけていき、清  
掃活動を行った。資料13は、公  
民館の清掃活動後の子どもの感  
想である。「きれいになった公民  
館をつかう人たちが笑顔にな  
るようにかんばったと思いま  
した。」と、地域の人のために働く  
ことができたことが分かる。こ  
れらの学習から、子どもたちは、  
地域の人素晴らしさに気付  
き、自分たちも地域の人のため  
に働きたいという問題意識を持  
ち、地域のために働く活動を行  
うことができた。しかし、社会  
のために自分が役立っているこ  
とには漠然としか気付くことが  
できていなかった。

はだしてトイレに入る時、ゆかが黒くて  
すみは、ゆかの倍真黒で足が進みま  
せんでした。でも、先生がふつうにいつもど  
おりに歩いていて心がきれいな人だなあ  
と思いました。きたない所でも、手を入れてみがい  
いてすごかったです。べんきを見ると、白いはずが真黄  
色になっていました。私は、自分の場所を決め  
てゴジゴジこすっていると、自分の顔がうつて  
いて銀の戸もピカピカになりました。ど  
このべんきをみてもピカピカ真白になっ  
ていました。ゆかも、青のゆかにもどっていました。  
すみもよくこすりました。先生からかんばった  
ぬと言われて、うれしい気持ちになりました。  
トイレそじをして本当に心がきれいになった  
と思いました。これからもかんばりたいです。

資料12 トイレ掃除後の感想

今日、公民館掃除がありました。ぼくは、  
宅間田公民館をそじしました。まどガラス  
がすごくよごれていて新聞じつとみがい  
ているとピカピカになりました。そして、公民館  
長さんがそれを見てほめてくれました。まど  
うれしかったです。まどガラスでは、なく、  
他のそじ場所の、よごれも、しっかりみ  
つけて、きれいにすわることができました。  
最初の、ものすごくきたないよこれが、自分  
の手でみかぐたびに、そのよごれがどい  
とよきていて、それがまどうれしくて、楽  
しかったです。それを、なんども、なんども続  
けていくと、きたないよこれがどこかへ、  
ふっ、とんびいくみたいに思いました。そじ  
が、終わったとき、そじをはじめのまえより、  
すごくきれいになりました。公民館長さんが  
ものすごく、笑顔でほめてありました。きれい  
になった公民館をつかう人たちが笑顔にな  
るようにかんばったと思いました。

資料13 公民館掃除後の感想

イ 道徳の時間

第5学年 主題名「誰かの役に立つ喜び」 [高学年4-(4)]  
資料名「牛乳配り」 (文溪堂)

資料「牛乳配り」は、親から言われて始めた牛乳配りの仕事を、つらくて辞めたい  
と思っていた主人公が、牛乳を届けている高齢者から手紙をもらうことで、自分の仕  
事が人の役に立つ価値あるものであることに気付く話であり、働くことの喜びについ  
て考えることができる資料である。



への喜びとなって返ってきたことに気付きました。生き生きと役に立つことをしていきたいです。」と自分の道徳的心情を価値付けし、これからの生き方を思い描くことができ、**「志向性」**が表れた姿であるということが出来る。

終末では、地域のボランティア団体の人から、働くときの思いや子どもたちへの期待を話してもらうことで、これからの実践意欲を温めさせた。

#### ウ 自己の変容を実感する活動

事後に、総合的な学習の時間に、自分たちと地域の人とのつながりについて学んだことを、地域に伝える方法を考えさせ、学習発表会で保護者や地域の人に向けて発信させた。資料17は、学習発表会後の子どもの感想である。「お世話になるばかりではなく、地域の人役に立って、地域の人とのかかわりを広げることが

学習発表会で、公民館そうじのことを発表しました。地いきの人には、いつもお世話になっているので感謝の気持ちで発表しました。公民館そうじをして、お世話になるばかりでなく、地いきの人の役に立って、地いきの人のかかわりを広げることができました。これからも、家や地いきでそうじをしたり、できることを考えたりして、つながりを強くしていきたいです。保育所にも行って交流してみたいです。

資料17 学習発表会後の感想

きました。これからも、家や地域で掃除をしたり、できることを考えたりして、つながりを強くしていきたいです。保育所にも行って交流してみたいです。」と自分の成長を実感することができており、「**実行性**」が表れた姿であるということが出来る。

## (2) 道徳教育推進教師の取組

### ① 道徳の時間を充実させるための働きかけ

4～8月は、道徳の時間を充実させるための働きかけを重点的に行った。まず、全職員に対して、道徳教育全体計画についての提案を行い、道徳の時間の基本的な学習過程を提示するとともに、道徳の時間の特質についての共通理解を図った。また、若い教師に対して、ロールモデルとなる道徳の時間の授業として、実践例1を公開した。実践例1については、学校長をはじめ地域の方にも授業を参観していただくことができた。また、若い教師が作成した道徳学習指導案の指導助言を行ったり、授業づくりの支援を行ったりして(実践例2、実践例3)、授業力向上、改善を目指した取組を重視した。加えて、11月には、道徳推進教師として、子どもの生活や体験活動との関連を意識した道徳の時間の授業公開を行った(実践例4)。

### ② 関連的指導に対する理解を深めるための働きかけ

本校では道徳教育の重点に道徳の時間と日々の生活、各教科・領域との関連的指導を掲げているため、4月に関連的指導の指導計画について提案を行った。また、後期が始まる(10月)に、関連的指導の組み立て方についての説明を行った。加えて、実践例4をもとに、道徳の時間を中核とした関連的指導の例を紹介した。

### ③ 実践後の評価・修正を行うための働きかけ

前期修了後(10月)に、教職員に対し、道徳の時間を中核とした関連的指導の実施状況

について調査した。「教科・総合・特別活動等での体験活動と関連付けた指導が行えましたか。」という質問に対し、結果は2.44（4段階評価）と低かった。その理由を尋ねたところ、「関連付けた指導のイメージが具体的にもてない。」「学習したことを日常生活の中で生かしていない。」といった意見が聞かれた。そのため、前期の評価を生かして、関連のさせ方を説明し、来年度に向けての前期指導計画の加筆修正と後期指導計画の見直しを行ってもらうように提案した。また、後期にも同じ調査を行い（1月）、さらに道徳の時間を中核とした関連的指導の成果を高めるため、次年度に向けて、指導内容の系統を明確にし、めざす子どもの姿を1年間を通して見通すための道徳教育推進計画を作成することについて、研究推進委員会で話し合った。

## 7 成果と課題

### (1) 研究の成果

○ 図4は、道徳の時間を中核とした関連的指導の効果についての教職員（学級担任）の評価である。めざす子どもの姿（「価値性」、「志向性」、「実行性」）が見られたと評価する教員が多かった。このことから、関連的指導が、規範に必要性を感じ、価値あるものと判断して、自己の生活と結び付けて考える子どもを育てる上で有効であったといえる。

○ 図5は、道徳教育について、教職員（学級担任）の前期と後期の評価（4段階評価）を比較したものである。後期にかけて、関連付け

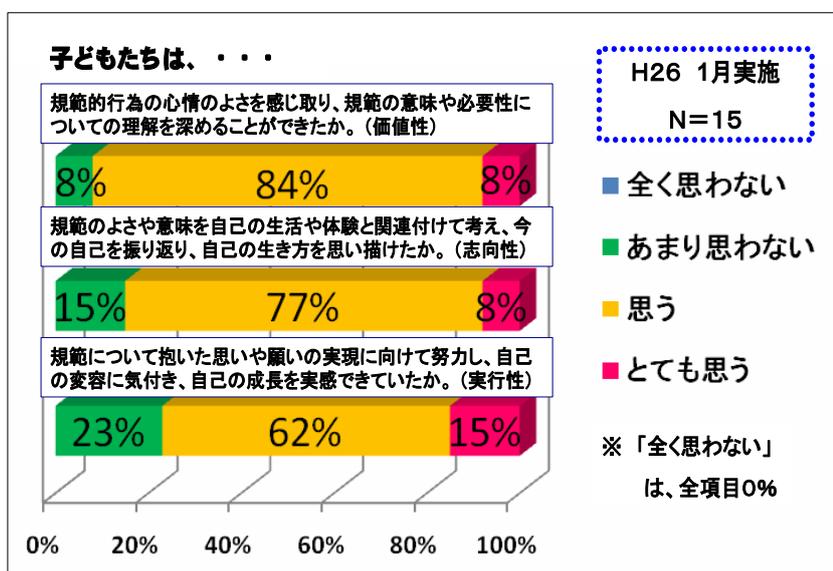


図4 関連的指導の効果についての教職員（学級担任）の評価

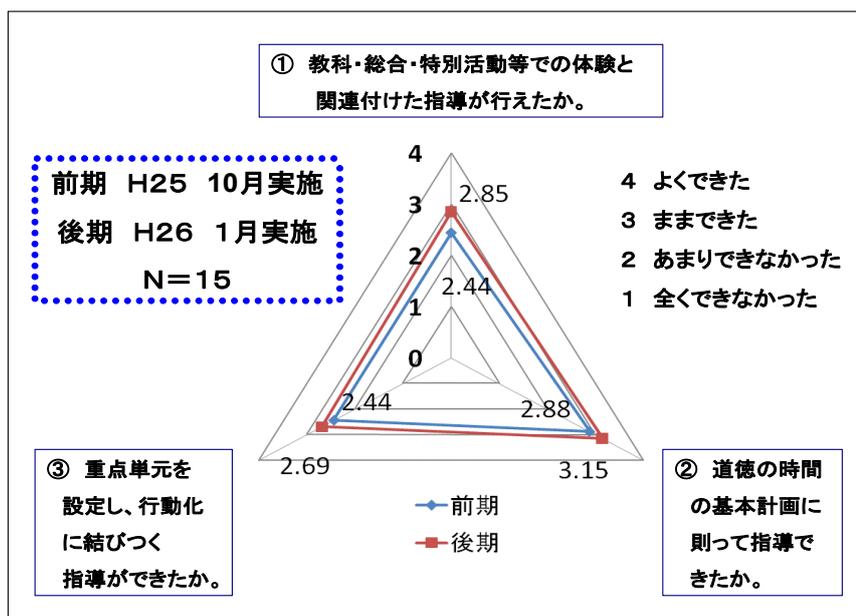


図5 道徳教育についての教職員（学級担任）の評価

た指導の実施、道徳の時間の充実、行動化に結びつく指導の充実が図られたことが分かる。このことから、道徳の時間についての共通理解を図ったり、道徳の時間を中核とした関連的指導についての説明を行ったりし、実践後に計画の修正を呼びかける道徳教育推進教師としての取組が有効であったといえることができる。

○ 資料18は、実践例3を行った若手教師Bが、道徳教育推進教師が行った実践例1の道徳の時間の授業（ロールモデル）を参観した後の感想である。若手教師Bは、「道徳の時間の授業の流れがよく分かりました。」「道徳の時間と他教科・領域との関連のさせ方について学びました。」と感想を述べており、道徳の時間についての理解

授業を参観して、道徳の時間の授業の流れがよく分かりました。これからの学習指導案作りに役立てたいです。授業を行う際は、学習指導要領解説をよく読み、子どもにとらえさせたい内容を明らかにしておきたいと思います。

また、ねらいを達成するために、表現活動や発問の工夫が必要であることも分かりました。子ども一人一人が自分の思いや考えを表現できていて、道徳的価値について考えているところがいいなと思いました。

さらに、道徳の時間と他教科・領域との関連のさせ方について学びました。構えをつくる活動を行った後に、道徳の時間を行い、自己の変容を実感する活動を位置付けるようにしたいです。特別活動等との関連を工夫して、子どもの日常の行動につながる道徳教育を行っていきたいです。

資料18 若手教師Bの授業参観後の感想

を深め、他教科・領域との関連的指導についての実践意欲をもつことができたことがわかる。このことから、道徳の時間を中核とした関連的指導を行うための活動構成を明確化したことや、道徳教育推進教師がロールモデルを提示し、その後、若い教師の道徳の時間の授業づくりに対する指導助言を行う働きかけが有効であったことが明らかになった。

## (2) 今後の課題

●図4から、関連的指導の効果をあまり感じなかった教職員もいることがわかる。その理由として、道徳の時間と子どもの日々の生活や各教科・領域との関連付けが不明確であり、行動化に結びつく指導が実践できなかったことが挙げられる。そのため、道徳の時間と教科・領域との関連を1年間を通して見直し、それぞれのねらいの系統を明確にした道徳教育推進計画を作成したり、それぞれの教職員が実施した実践を紹介する研究便りを発行したりする働きかけの工夫が必要であったと考える。

●生徒指導や人権・同和教育との連携を図り、PDCAサイクルを定期的に見直す必要があった。

## <参考文献>

- |                                |           |           |
|--------------------------------|-----------|-----------|
| ・ 「高めよう規範意識！行動化を促す関連指導の工夫」講座資料 | 福岡県教育センター | 平成23年度    |
| ・ 「小学校学習指導要領解説 道徳編」            | 文部科学省     | 東洋館 平成20年 |
| ・ 「新しい自分に出会う道徳の学習」             | 永田繁雄      | 東洋館 平成21年 |
| ・ 「こころのノート 小学校1・2年」            | 文部科学省     | 平成21年     |
| ・ 「心ノート 小学校3・4年」               | 文部科学省     | 平成21年     |
| ・ 「心ノート 小学校5・6年」               | 文部科学省     | 平成21年     |